

水産業における 新型コロナウイルス感染症の 影響と対策

令和3年11月

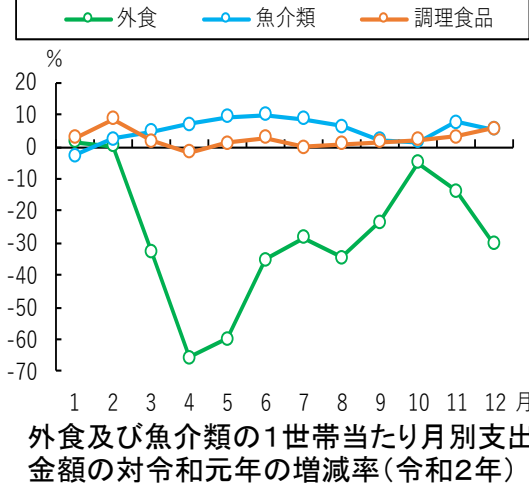
水産庁

水産業における新型コロナウイルス感染症の影響と対策

影響

- ・新型コロナウイルス感染症の流行により、外出や密集を避ける生活様式が常態化し、外食から内食へと食の需要が変化
- ・新たな水際措置に基づき外国人の入国が再開したものの、人手不足は依然継続

外食産業の売上げの減少



資料:総務省「家計調査」
注:対象は二人以上の世帯

高級魚介類や養殖品目の価格の下落

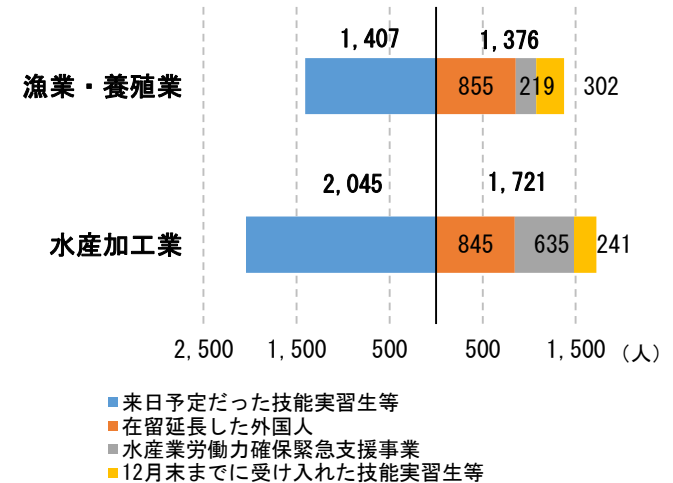
天然魚の消費地価格(令和3年9月)

魚種	価格	R元年比
クロマグロ	2,846円/kg	▲9%
キンメダイ	1,739円/kg	▲19%

養殖魚の産地価格(令和3年9月)

魚種	価格	R元年比
養殖マダイ(愛媛)	680円/kg	▲15%

入国制限による水産業の人手不足



資料:業界ヒアリング等に基づき水産庁で作成(令和3年8月末時点)

対策

〇特定水産物供給平準化事業

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受ける水産物の在庫の滞留を踏まえ、漁業者団体等が滞留する魚種を買取・冷凍保管する際の保管料、運搬料等を支援

〇水産業労働力確保緊急支援事業

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による人手不足を解消するため、漁業や水産加工業における代替人材の雇用や遠洋漁船において現在雇用されている外国人船員の継続雇用等を支援

※また、水産庁の漁業調査船等についても、ガイドラインを策定するなどし、長期航海※の場合のPCR検査の実施、航海中に発熱した場合に抗原検査の実施など、新型コロナウイルス感染症対策を行っている。

※長期航海とは、最寄りの港までの寄港に4日以上かかる海域で調査を行う場合を意味する